

# 防災ラジオドラマ「つくば 吾妻小学校地震編 エピソード③」

テーマ つくば市の新住民への児童引き渡し

登場人物（声優）

母親 D・・・山田さん。つくば市に新たに引っ越してきた新住民。（伊藤さん）

児童 D・・・山田太郎君。山田さんの息子。（山中君）

副校長 （大久保副校長）

担任先生 C （櫻井教頭）

ナレーション 「夏休み直前、つくば市の吾妻小学校の先生たちは、1時間目の授業中に起きた直下型地震の対応に追われていた。」

担任先生 C 「教頭先生、うちのクラスでまだ引き渡しに来てないのは太郎君だけなんですよ。どうしたら良いでしょうか。」

副校長 「でも、山田さんは引っ越して来たばかりで引き渡しのこと知らないんですよね？」

担任先生 C 「まだ近所に知り合いもないかも知れませんしね。」

ナレーション 「地震発生から8時間ほど経過し、まもなく夕方5時、ほぼ全ての児童が帰宅した学校に山田太郎君のお母さんがやってきました。」

母親 D 「太郎君、迎えに来たよ。帰ろう。」

児童 D 「はい、先生、バイバーイ」

担任先生 C 「あ、山田さん！ちよつと待ってください。きちんと引き渡しの手続きをしてください。列の後ろに並んでください。」

母親 D 「どうして並ぶんですか」

担任先生 C 「今回のような災害の時は、引き渡しという方法でお家に帰らせるんですよ。まだご存知なかったんですか。」

副校長

「どうしたんですか。あ、山田さんですね。震度6弱以上の地震や学校が火事になったりした時は、学校の終わりの時間よりも前に、お父さんやお母さんが迎えに来れる時にお子さんを帰したほうが良いときがあります。たとえば学校の建物が壊れたり、壁が崩れたりということもあるわけです。また地震の時は、余震と言つて、まだ揺れる場合もありますよね。」

母親D

「え、そうですね。」

副校長

「そういうときは、学校もたくさんのお父さんやお母さんと連絡をとらなくちゃいけないし、先生たちは自分の家族の心配もしなくちゃいけないんですよ。」

母親D

「はいはい。」

副校長

「ですから、あらかじめ『引き渡し』をどうやってやるか決めておけば、確実にお子さんを引き渡すことができます。こういう時は混乱するので、お互いにやり方を理解していただくことが重要なんです。」

母親D

「そうですね。」

担任先生C

「そのほかに、たとえばお父さんが遠くに勤めていて、お母さんが怪我をして迎えにこられないときに、代わりに来てくれる人を決めて登録しておいていただければ、その方にお子さんをお渡しできるんですよ。」

母親D

「そうですね。わかりました。前の学校では、そういう決まりがなかったんです。家族でよく話し合っておきます。どうも、ありがとうございました。」

副校長

「よろしく願います。」

**ナレーション**「山田さんは所定の手続きをし、太郎君と一緒に帰っていきました。」

★この防災ラジオドラマの注意点★

このドラマはつくば市立吾妻小学校において、教職員とPTAの方々を中心に、災害シナリオを考える2回のワークショップ（2010年2月26日、2010年7月22日）を通じて議論された内容に基づいて作成されました。

災害が発生した場合には学校、児童、保護者、地域などの中で様々な局面が想定されますが、このドラマは、地域に発生する大規模地震を想定し、小学校での児童の引き渡しにおける様々な問題や課題について、先生の方々とPTAの方々が話し合い創作されたフィクションです。

ドラマの制作過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしていますが、社会的なシミュレーション（模擬演習）として、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。